

令和５年度 県立下妻第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
平常課外や土曜課外を計画的に進め、進路に対する意欲向上につなげることができた。より高い目標を実現させるため、体系的かつ組織的な進路指導を行う。 キャリア教育は着実に歩を進めているが、その基盤となる、思考力・判断力・表現力の育成や知識・理解度を高める働きかけが不足している。主体的に学ぶ態度を育成するためにも、ICTの活用等の活用により、個々に応じた指導とサポートを実践する。 基本的生活習慣の確立が見られ、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。交通や情報モラルなどの規範意識の高揚を目指すきめ細やかな指導を継続する。また、スクールカウンセラー等を活用し、支援を必要とする生徒への対応を充実させる。 学校行事や部活動に積極的に参加する生徒が多く、部活動においては運動部・文化部ともに高い実績を上げている。生徒の主体的活動を促進するための学校行事や部活動運営を行いつつ、保護者の期待と教職員の働き方に配慮した部活動の在り方を考える必要がある。 海外とのオンライン交流等を行い、充実した国際理解活動を行うことができた。生徒の要望もあり、語学研修の再開に向けた環境整備を行う。また、ALTとの連携により、生徒の語学への関心を高める。 学校HPの充実・メディアへの情報提供により、保護者や地域住民の皆様への情報発信を充実させることができた。今後もJRCや生徒会、総合的な探究の時間の活用等を通して、家庭や地域との連携を密にする。 「働き方改革」への意識はあるものの、部活動・進路指導に熱心な教職員が多く、時間外在校時間の短縮に繋がらない。より時間を意識した働き方改革の実現を図ることが必要である。	○授業改善と主体的学習態度の確立	①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を推進し、ICT等も活用しながら個々の生徒に応じた指導法の改善とサポート体制の充実を図る。 ②授業第一主義の下、集中した授業を展開するとともに、自主性・主体性を大切にした学習習慣の定着を図ることで、進路実現に対応した思考力・判断力・表現力、知識・理解力を身に付けさせる。 ③生徒の授業満足度（KPI）80%以上を目指す。	A
	○より高い進路希望の実現	④より高い目標を実現するため、課外授業や模擬テスト等の有効活用と充実を図り、最後まで自分の目標をあきらめさせない。 ⑤進路行事等の活用によりキャリア教育を充実し、生徒の資質・能力の向上を図り、社会に貢献できる人材育成のため、大学進学等を推進する。	B
	○個人指導（面談）の充実	⑥面談を通して、個々の生徒理解と保護者との共通理解を図る。	B
	○豊かでたくましい責任ある人間性の育成	⑦部活動加入を推進し、豊かな人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成、充実を図る。 ⑧基本的生活習慣及びマナーを身に付けさせるとともに、「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、道徳や道徳プラスを通した心の教育や健康教育の充実を図る。 ⑨学校行事や生徒会活動、「総合的な探究の時間」などを通し、生徒一人一人が主人公となって、協働的、主体的に活躍できる活動を充実させる。	B
	○国際理解教育の推進	⑩海外語学研修等を推進し、自国・異国の文化と国際平和理解を深める。 ⑪海外生活体験者や外国人の活用、ALTの積極的活用を通して、国際理解を推進するとともに、積極的に英語を使う機会を設ける。	A
	○情報発信の充実と地域との連携	⑫ホームページや学校通信、メディアを通して、学校の取り組みや生徒の活動を地域社会や近隣中学校に広く発信し、学校理解を促し、地域や中学校との連携を深める。 ⑬ボランティア活動や「総合的な探究の時間」等を通して地域との交流を推進し、家庭・学校・地域が一体となって、生徒を支援し育成できる環境づくりを構築する。	B
	○効果的な教育活動の推進	⑭持続可能な学校教育を展開するために、勤務時間を意識した働き方改革を推進する。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクール・ポリシー）		「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	①文武両道を目指し、知・徳・体のバランスが整った人材 ②国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる人材 ③地域の核となる人間性豊かな人材	A		学校行事や特別活動の精選を行い、実施することにより、人材育成を図る。
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	①生徒の学習意欲を高める教科指導法の研究と改善を図り、学力の向上を目指す。 ②大学進学を推進し、国公立大学20名以上合格と難関私立大学合格者増を図るため進路指導の充実を目指す。 ③県西地区の運動部・文化部の中心校として部活動の活性化を図り、各種大会での活躍を目指す。 ④道徳教育やシティズンシップ教育の充実によって、責任ある心豊かな人材を育成し、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。	A		授業改善に組織として取り組み、指導法だけではなく、シティズンシップ教育やSTEAM教育に積極的に取り組む。また、成果を上げている探究活動や部活動を次年度以降も継承する。
		「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	①積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ②地域から世界のことまで、広く興味・関心をもっている生徒 ③生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒	B		近隣中学校・学習塾への広報活動、および学校公開やホームページの積極的な活用を進める。
評価項目		具体的目標	具体的方策（○数字は関連する重点目標）	評価		次年度（学期）への主な課題
	国語	進路実現に向けた国語力の伸長	家庭学習の定着を図るための工夫をする。タブレット等を使つての学習に習熟させる。①②③	B	B	・タブレット等、ICTを活用した授業研修に努める。 ・生徒の主体的な探究活動と言語活動を充実させた授業実践に努める。 ・小論文指導は添削指導を含め、学年と連携しながら今後も継続的に実施していく。
			漢字、古文単語の小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。①②③	A		
			新傾向の入試や外部模試に対応した授業を行う。①②③④	A		
		授業の創意工夫	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践と個々の生徒に応じた指導法を工夫する。①②③④	B		
			ICTを活用し、効果的な授業を工夫する。①②③④	B		
			授業の中で図書紹介をする等、読書指導を行い、本に親しませる。①②③	B		
			進路希望に応じた小論文指導を行う。④⑤⑨	A		
	地歴公民	基礎学力の向上	教科書の内容を理解し、基本歴知識を身につけさせる。①②	A	B	・ペアワークやグループワーク等、言語活動を取り入れ、知識をアウトプットできる授業環境を作り出す。 ・知識定着のために、ICTを積極的に活用する。 ・多角的な評価を行い観点別評価に基づき、多角的な評価が
			小テストや記述演習などを実施し、知識の定着を図る。①②	A		
		受験対応能力の養成	授業や課外を通じての入試問題演習を行い、その対応力を育成する。②④⑤	B		
			図表や資料の読み取りといった新傾向にある入試問題に対応した授業の展開を行う。②④⑤	B		
		授業の創意工夫	グループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒が主体となって学ぶ授業を展開する①②③	B		
			時事問題と授業内容結び付け、社会への興味関心を高める。①③	A		
			ICTを活用し、効果的な授業を展開する。①②③	B		
	数学	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行う。①②	A	B	・数学的思考力を身に付けさせるための授業展開を図る。 ・ICTを活用しながら、効果的な授業を展開する。
			小テスト等を利用し、理解度の把握を行う。家庭学習量の増加を促す。②④	B		
		進路実現に向けた学力の育成	授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②④	A		
			新学習指導要領に向けた学習指導の研究。②	B		

	理科	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行う。①②	A	B	・実験の回数をさらに増やし、科学的な思考力育成に努める。 ・基礎的な知識を身に付けさせるため、ICTを効果的に活用する。
			実験を多く取り入れ、授業の創意工夫に努めた授業を行う。①②	B		
		進路実現に向けた学力育成	授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②④	B		
			科学的思考力、表現力、判断力を養い、科学リテラシーを身に付けさせる。②④	B		
	保健体育	自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成	さまざまな健康課題に対して、適切な意志決定・行動選択ができるよう、知識の習得と健康的なライフスタイルを身につけさせる。②	B	B	・今年度途中からプール使用不能に伴う、年間指導計画の検討 ・ICTを活用した授業展開の構築
			運動にふさわしい身だしなみを整え、授業に臨む態度の育成を促す。⑧	A		
		たくましく生きるための体力の向上	学習活動を通して主体的に運動に取り組み、体力テスト総合評価A及びBを60%に増やし、D及びEの生徒を10%に減らす②	B		
			技術レベルにあわせた簡易ゲームができるようにする。①②	B		
	芸術	創造的な表現力の育成	意欲的に工夫する能力、自己表現する能力を育成する。①②	B	B	・ICT活用と教科内の横断的な授業展開を考える。
		鑑賞力の育成	主体的、能動的に芸術を鑑賞する態度を育成する。①②	B		
	英語	基礎力の定着	英単語テストや文法語法テスト、各種課題等を通して、語彙力の増強や基礎力の定着を図る。②	A	A	・英文の読解力をつけさせるための、指導の工夫。 ・ICTを活用した授業を行うための研修を実施。 ・豊かな英語表現を身に付けさせるための指導の工夫。
			生徒の学習意欲を高めさせ、家庭学習時間の確保と民間試験(GTEC、英検等)の受験促進に努める。①	A		
		授業の創意工夫	教員間での情報交換を通して、教材研究を深め、わかりやすい授業の創意工夫に努める。①②③	B		
			新課程の「英語で行う授業」の実践に努める。①②⑩	A		
		ALTの活用	ALTを活用して異文化理解に努め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力を育成する。⑩⑪	A		
	家庭	基礎的・基本的技術の習得	基礎的基本的知識と技術を身につけるため、実践的・体験的な授業の充実を図る。①②	A	A	・ICTを活用し、評価の工夫を行う。 ・実習が円滑に実施できるよう、ICTを活用する。
		主体的学習態度の育成	自らの生活に関心を持ち、主体的に生活を営む力を養うための授業の工夫に努める。①②	B		
	情報	共通テストを見据えた学力の向上	共通テスト元年となる現2年生の学力を高めるため、情報Iの教科書を熟知させ、予想問題を解ける能力を養う。①②	A	B	・共通テストに向けた準備を行う。 ・情報モラルに関しては、調べ学習を取り入れるなど、主体的に学習をさせる。 ・簡単かつ実用的なプログラミングを習得させる。
		インターネット社会に適応するための技術や情報モラル	インターネットを含めた社会問題の具体的な事例を学び、問題が起きた時の解決方法や、犯罪に巻き込まれないための知識を学ばせる。①②	B		
		PCスキルの向上	社会人として必要なPCスキルの向上のため、タイピングの反復練習を行い、Wordの修飾機能やExcelの関数などを使いこなせるよう学ばせる。①②	B		
		問題解決力の育成	将来のために解決しなければならない問題点を考えさせ、解決するために必要な知識を学習し、今後に活用させる。①②	B		

教務	学力向上のための支援	学年・教科との連携を図り、学校行事を適切に計画実施するように努める。②④⑨	B	B	・昨年度から始まった観点別評価について、適正な評価になるよう各教科と連携していく。 ・学校説明会の動画撮影等、さらに充実させ、中学生に関心を持ってもらうよう改善していきたい。 ・教務業務のデジタル化を進めることができた。さらに効率化を目指したい。
		定期考査の円滑な実施を図り、授業の充実や適正な評価に結びつくように努める。①②⑤	B		
		観点別評価について、適正な評価になるよう各教科と連携していく。①②⑤	B		
		ICTの活用等、授業の充実・改善に向けて研修の機会を設け、教員の共通理解を図る。①②	B		
	教育課程の研究	新学習指導要領、高大接続改革などを勘案し、教育課程を編成する。②④	B		
		生徒の多様な進路実現に向けて、指導計画の確立を目指す。①②④	B		
		総合的な探究の時間や道徳の運営が適切に行われるよう努める。④⑧	B		
	地域・中学校などへの広報活動の充実	分かりやすい学校案内の作成に努める。⑫	A		
		学校の特徴が表現できるような学校説明会や学校公開の実施方法の改善に努める。⑫⑬	B		
		学校ホームページを積極的に活用していく。⑫⑬	B		
生徒指導	服装・頭髪指導の徹底	年度内に4回、頭髪服装検査を実施し、自らの服装・容儀について考えるよう呼びかける。⑧	B	B	・アルバイトや服装等の規則を明確による、学年間の差の解消 ・交通事故を起こさないための指導 ・ヘルメット着用率の向上を図る。
	交通安全の徹底	交通安全講話会やバイク講習会等を実施し、交通法規やマナーの遵守を呼びかける。⑧⑬	B		
進路指導	望ましい進路選択の支援 進路実現のための支援 進路実績の伸長を目指す	広く社会に目を向けさせ、生徒の能力に応じた進路に対する意識づけを促す。①④⑤⑥	B	B	・学年中心に生徒の進路実現につながるような進路学習ができた。 ・進路通信を発行し、進路や学習に関する情報を生徒や保護者に発信することができた。 ・家庭学習時間の確保等、学習意欲の向上を図っていくことが課題である。
		生徒が自ら意欲的に行う家庭学習時間の確保増加をするための検討を行う。②④	B		
		自己の人生設計から考えて、より高い進路目標を具現化するための支援を行う。④⑤⑥	B		
		現状に応じた的確な進路情報の提示を行うとともに家庭とも情報を共有する。③⑤⑥	B		
		生徒の状態を敏感に感じ取り効果的で計画的な面接指導のあり方の検討を行う。⑥	B		
特別活動	学校行事を通し、自主性・協調性の涵養を図る。	生徒会や委員会が主体となり、全生徒が生き生きと活動する行事の企画運営をする。⑦⑧⑨	B	B	・各行事において、生徒主体の運営方法の構築。また、教員へ事前計画やその詳細等の周知徹底を図る。 ・ボランティア活動に対する関心が高まるように啓発する。 ・今後も、感染症を考慮し、学校行事を円滑に運営出来るようにする。
		クラスマッチや文化祭などの行事で生徒の係分担などを明確にして、責任感を持たせるとともに全員が協力する意識を高揚させる。⑧⑨⑬	B		
	部活動の充実を図る。	生徒の自発的活動を支援する体制を整備する。⑥⑦⑧	B		
	心の教育の充実を図る。	文化部の活動を充実させ、活動内容の発信をする。⑦⑧⑪	B		
		生徒会が中心となり部活動やHRをリードし、ボランティア活動や募金活動などに取り組めるようにする。⑦⑧	B		
		計画的なHR活動の展開及びキャリアパスポート等の活用によりキャリア意識の高揚を図る。⑦⑧	B		

保健厚生	自主的に健康の保持増進に努める態度の育成を図る。	保健だよりや保健指導を通して、健康の保持増進に関する情報提供を積極的に行う。⑧	A	B	新型コロナウイルスの影響が年度初めごろまで残る。防火防災避難訓練は、次年度令和6年は以前の形式で実施予定。可能な限り行事等を開催していきたい。 心の不調を訴える生徒が増えてきているので、生徒からのサインを見逃さないようにする。
		心身の健康に問題のある生徒には、個別相談活動を積極的に行う。⑥	A		
		性に関する講演会を実施する。⑧	A		
	教育相談の充実	生徒が利用しやすい相談室になるよう整備する。⑥	B		
		相談活動が計画的に実施できるよう努める。⑥	B		
	清潔な教育環境確保と安全の確保に努める。	生徒会や環境美化委員会と連携をとり、校舎内外の清掃美化活動を定期的に実施する。⑧⑨⑬	B		
		防災避難訓練を通して、防火防災の意識を高揚させる。⑨	B		
		生徒の救命講習会を実施する。⑨	A		
図書	図書館利用を活性化させる	購入希望調査やリクエスト等により生徒の興味関心に沿った図書の購入に努めると共に、主体的で深い学びにつながる環境を整える。①⑧	B	B	季節行事や各種イベントを企画し、図書委員会活動の活性化を図っていく。読書感想文・読書感想画の他、POPコンテストへも積極的に参加する。今後は、生徒の主体的な学びにつながる環境を整える必要がある。
		図書委員を活動させ、推薦図書の紹介や図書館内のレイアウトを工夫する。⑨	A		
		図書館内の美化やマナー向上を図り、利用しやすい環境をつくる。⑧	B		
	読書の推進を図る	校内読書週間(年3回)を設けて、生徒の読書意識を高める。⑧⑨	A		
		図書だより(新着図書案内込み)、図書館報(年1回)を発行する。⑨	A		
渉外	PTA行事への保護者の参加率を向上させる。	PTA総会、支部総会を同日に実施する。	A	B	・PTA組織の在り方について考え、さらなる改革を進める。 ・地域と連携したPTA活動を模索する。
		PTA役員及び評議員会の円滑な運営並びに研修活動の推進をする。	B		
		学校行事等においては、保護者の参加要望が高まる内容のものを検討する。⑫	B		
	広報活動を通じて、保護者の学校理解を深める。	会報を充実し、学校及び生徒の活動、成果をわかりやすく保護者に伝える工夫をする。⑫⑬	A		
		地域との連携を密にし、PTAと生徒が協働する活動を促進する。⑫⑬	B		
教育情報	校内ネットワークの管理	校務用端末及びサーバの維持管理に努める。	A	B	・全棟へのWi-Fi整備 ・校務用パソコン整備
		無線LANを有効活用し、教育用および生徒用端末を有効利用できるように整備する。①②	A		
		リモート会議等、円滑にオンライン活用ができるよう、校内研修および機器整備に努める。	B		
		校内ファイルサーバの活用とファイル保全を図る。	A		
	情報セキュリティ対策	ウィルス感染防止を常に心がけ、教職員および生徒向けにセキュリティやICT活用に関する内容を随時伝達する。①	B		
	学校ホームページの運用	学校ホームページを計画的に運用し、内容をより充実させ、広報活動に努める。⑫	B		
		緊急メール配信が遅滞なく活用できるように支援する。⑫	B		
	視聴覚教育の充実	教育情報委員会の活動を活性化させ、視聴覚教育が効果的に実施されるよう環境を整備する。①②⑫	B		
	情報処理の円滑化	成績処理諸帳簿などの処理において、関係する部との連携を図る。	A		
		「教務支援システム」でのデータ処理管理が円滑に行えるように、関係する部との連携を図る。	A		

第一学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間を守る、身だしなみの三点を重点的に指導する。⑧	B	B	家庭学習の習慣を定着させる。 学習の必要性や進路に対する意識づけを行う。 達成度が図れるような目標を設定する。
		LHRや総合的な探究の時間等を通して心の教育に係わり、自発的な規律意識を高める。学校行事等で活躍できる活動を充実させる。⑦⑧	B		
	基礎学力の定着	授業を大切に、予習復習家庭学習の習慣を義務づけ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		各教科に進学を意識した授業を要請し、基礎学力の定着と問題解決能力の向上を図る。①④	B		
	進路意識の向上	LHRや進路行事を通して的確な進路情報の提示を行い、早期の進路希望決定、目標の設定を促す。④	B		
		個別面談を通して、生徒や保護者との連携を密にし、学習意欲や進路意識の向上を図る。⑤⑥	B		
第二学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間を守る、整理整頓の三点を継続的に指導する。⑧	B	B	・服装容儀やマナーについて、継続的に指導を行う。 ・進路希望実現に向けて、学習指導の充実を図る。 ・保護者との連携を密にした指導体制を構築する。
		欠席、遅刻、早退が多い生徒への早期対応をする。⑦	A		
		服装容儀等、高校生として規律正しい生活を指導する。⑦	A		
		授業・LHR・総合的な探究の時間等を通して心の教育に係わり、振り返りをさせることにより、生徒の主体性を高める。①⑧	B		
	学力の向上	授業を大切に、家庭での予習・復習を習慣化させ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		始業前の学習・定期考査・課題テスト・小テスト・模擬試験等に対して主体的・継続的な学習の実践を促進し、学力の向上を図る。②③	B		
	進路意識の向上	LHR・進路行事を通して、継続的に進路情報の提示を行い、早期の進路希望決定・自己目標の設定を促す。②③④	A		
		オープンキャンパスや進路説明会等への積極的な参加を促し、進路実現に対する意識を高める。④⑤	A		
第三学年	基本的生活習慣の確立	進路実現に向けて規律ある生活と努力を続ける姿勢を保つように指導する。⑧	B	B	・高い進路目標を設定する。 ・多岐にわたる進路実現のため、さらなる教職員の連携を図る。 ・進路決定者の事後指導を、体系化する。
	進路希望実現に向けての 学力の向上と着	授業第一主義の下、自主性・主体性を大切に、学習習慣の定着を図る。②	A		
		進路に対して高い目標を掲げ、課外活動や模擬試験等への主体的・積極的な取り組みを促進する。また、家庭学習時間の増加を図る。②④	B		
		放課後や土曜、長期休業中の課外を行い、さらに学力の伸長に努める。④	A		
		定期考査、小テスト等で基礎学力を育成するとともに、授業で演習・外部模試等を積極的に活用し、受験に対応した学力を身につけられるように指導する。②④	B		
	規範意識の向上	面談を通して、生徒理解と保護者との共通理解を図り、欠席、遅刻、早退が多い生徒への早期対応をする。⑧	A		
		面談・LHR・学年集会・学習活動等を通して、進路実現に対応した知識・理解力・思考力・判断力・表現力を高める指導をし、適性にあった進学・就職を経て社会に貢献できる人材の育成を目指す。②④⑤	A		
	規範意識の向上	服装容儀等、高校生として規律正しい生活を指導する。⑧	B		
		最高学年としての自覚を高め、責任ある態度や公共心・協調性の育成に努める。⑧	B		

※評価基準 A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：努力を要する